

## 学級定員の減少計画を歓迎する

新聞の伝えるところによれば、文部省は、小学校の学級定員を、四十五人から四十人に減少させることをめざして、具体的計画をはじめたという。内藤文部大臣の見識と決断を高く評価したい。

今回は小学校の学級定員のことである。幼稚園はずっと四十人定員のままであり、常識から考へても、一人の教師が扱うのには無理な人数である。幼稚園の学級定員の減少は、幼児教育の急務である。

以前に小学校の校長先生から聞いた話であるが、学級の受持人数が三十五人を超えると、一人増加する毎に一人分の負担ではすまないという。子どもの方からいっても、ある人数を超えた分の子どもは、先生から目をかけてもらっているという気持をもたないであろう。関心のない他人のように、通り過ぎていくだけの人としか映らないであろう。

小学校時代のことは、私共の記憶にも

明瞭に残っているものがあり、誰でも思ふ当るものがあるだろう。幼稚園のこととなると、断片的な記憶しかない場合が多い。けれども、先生の受持人数が多すぎるために無理をしていることが多くなっていることは、戦後三十年間のわれわれの経験だけからも、次第に明らかになってきているのではないか。教育上の必要というよりも、四十人の幼児を手もとにひきよせておくための技術が先に立ってしまふ。四十人の子どもがけがをせず事故を起さないで一日過すことでエネルギーを消耗してしまふ。小さな幼児を四十人も、同じ時刻に昼食にし、同じ時刻に帰すだけでも、どんなに大変なことかは、だれでも分ることである。

学級定員が減少すれば、教育の質が変わってくるであろう。それによって、教育問題、児童問題の多くが、自ら解決されるであろう。学級定員減少はそれほどに重大なことである。

(津守 真)

## 幼児の教育 第七十八巻第四号

四月号 © 定価二五〇円

昭和五十四年三月二十五日 印刷  
昭和五十四年四月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします